5.12　鎌倉海岸七里ガ浜地区
（ポケットビーチ）

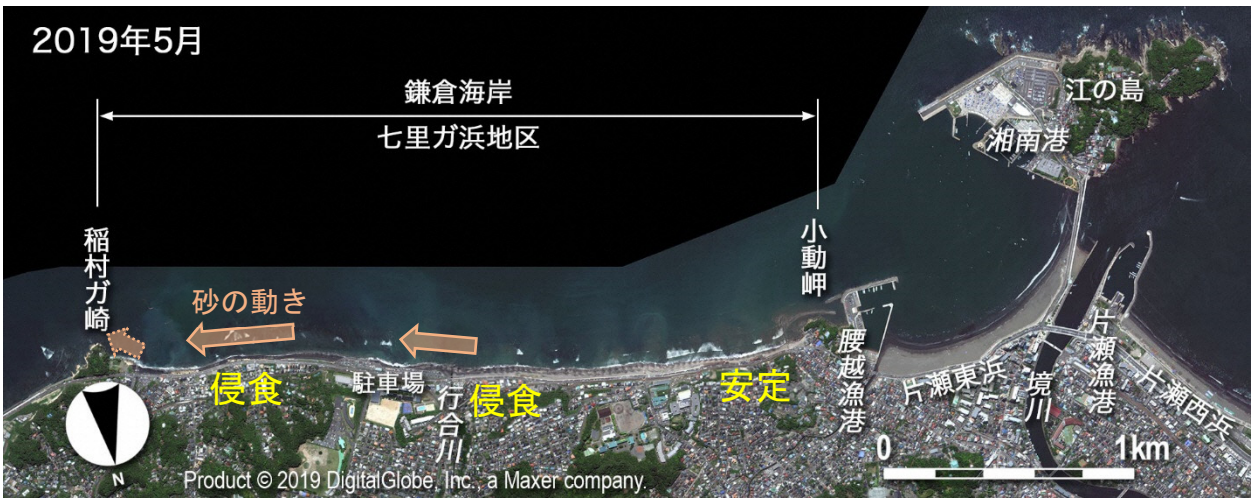
※　対策の実施に際しては、本計画に基づき、養浜の量、質、投入方法等に関する、より具体的な検討を加えるものとします。

鎌倉海岸七里ガ浜地区（ポケットビーチ）

【海岸概要】

鎌倉海岸七里ガ浜地区は、東端の稲村ガ崎から西端の小動(こゆるぎ)岬に挟まれた長さ 2.7km のポケットビーチです。西側には湘南港と腰越漁港の防波堤があるため、漂砂の出入りがない海岸となっています。一方、戦中戦後における稲村ガ崎西側隣接部での砂鉄採取や、関東大震災時の地盤沈降の影響も無視できず、さらに海岸中央部での駐車場の建設により稲村ガ崎側への沿岸漂砂が減少しました。このようなことから、稲村ガ崎の西側隣接部では砂浜が狭まり、岩盤が露出した場所が増えています。このため養浜を行った結果、砂浜保全に一定の効果をあげていますが、最近では稲村ガ崎周辺で著しい侵食が生じています。さらに、2017 年の台風第 21 号や 2019 年の台風第 10 号、第 19 号に伴う高波の影響により、国道 134 号で道路陥没などの被害が発生しました。

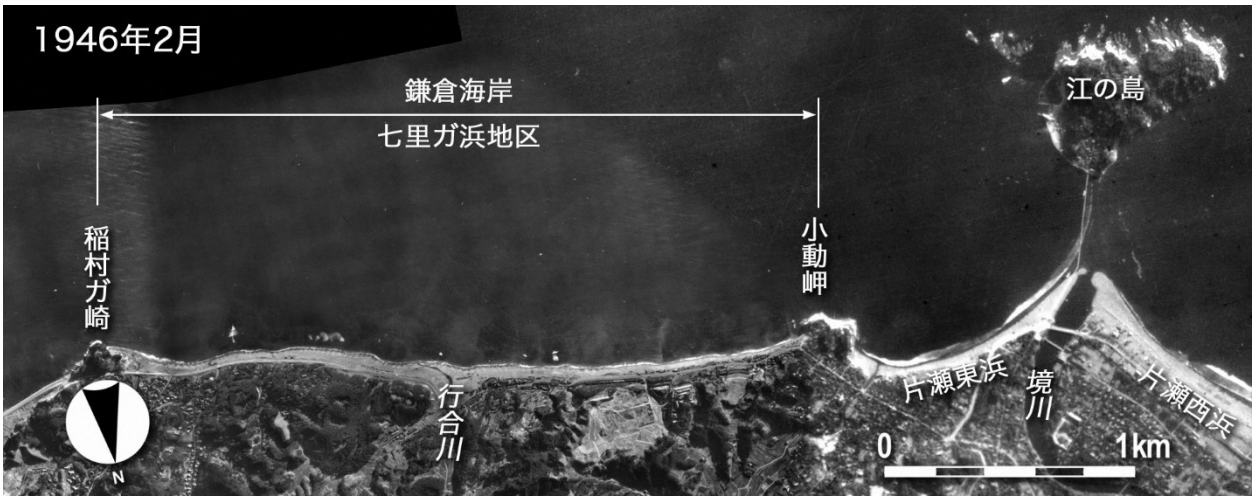
※　沿岸漂砂：海岸線に沿った砂の移動

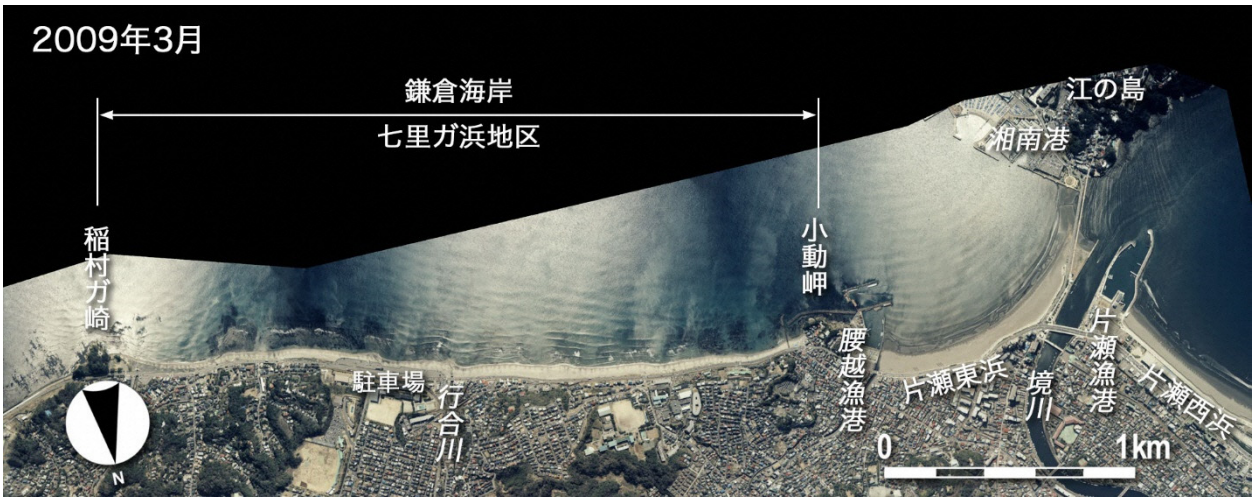


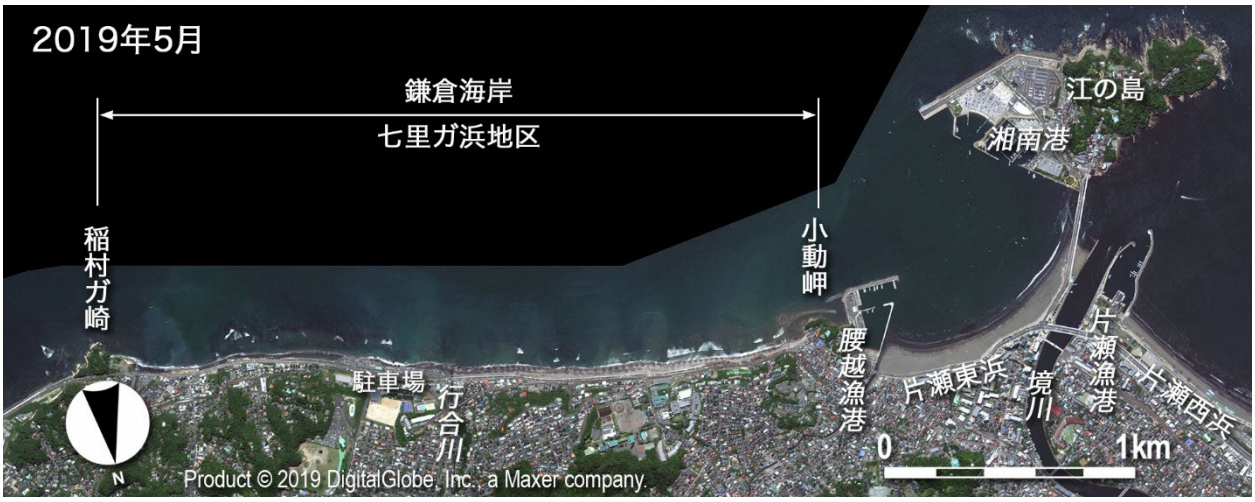
【現状の海岸の評価】

海　岸　名		鎌倉海岸
地　区　名		七里ガ浜地区
砂浜の安定性	傾　向	侵 食
	変形要因	・東端の稲村ガ崎に向かう砂の移動が卓越しており、稲村ガ崎を越えて砂が流出している可能性もあることから、海岸全体が侵食傾向となっています。 ・中央部での駐車場の建設により、稲村ガ崎側への砂の移動量が減少しました。
	変形予測（10 年後）	・海岸全体が侵食傾向にあり、海岸線が最大で 10m 程度後退することとなります。 ・東端の稲村ガ崎からの砂の流出が続く可能性があります。
砂浜の波消し機能による高波からの海岸背後地等の防護		△　東部で防護（根固め機能）が不足しています
課　題		砂浜回復 背後地の防護

【空中写真による海岸の変遷】





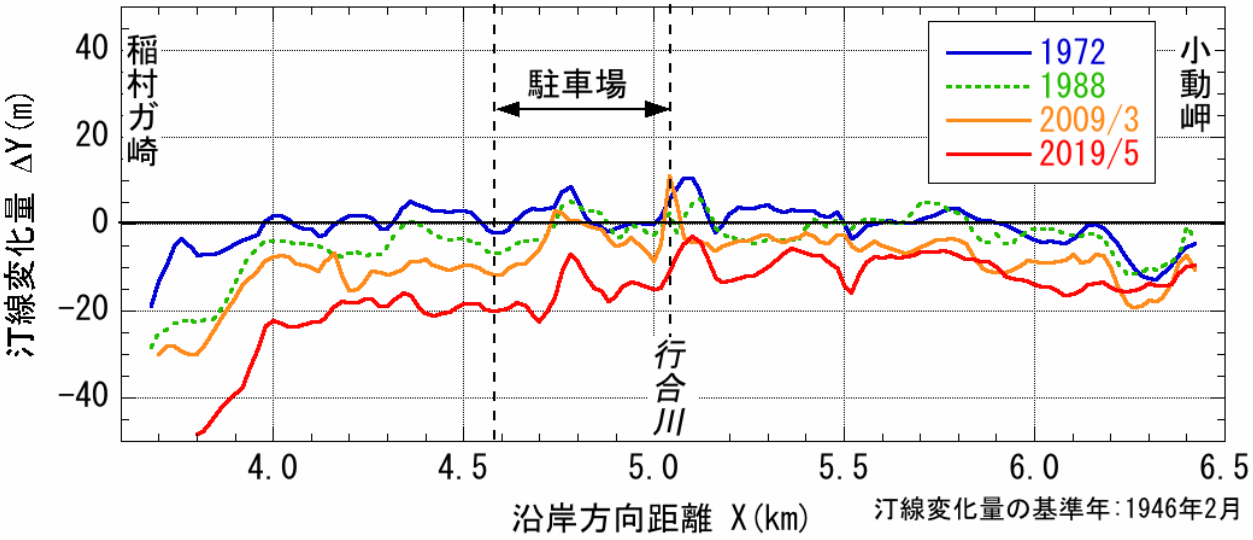


【海岸線の変化】

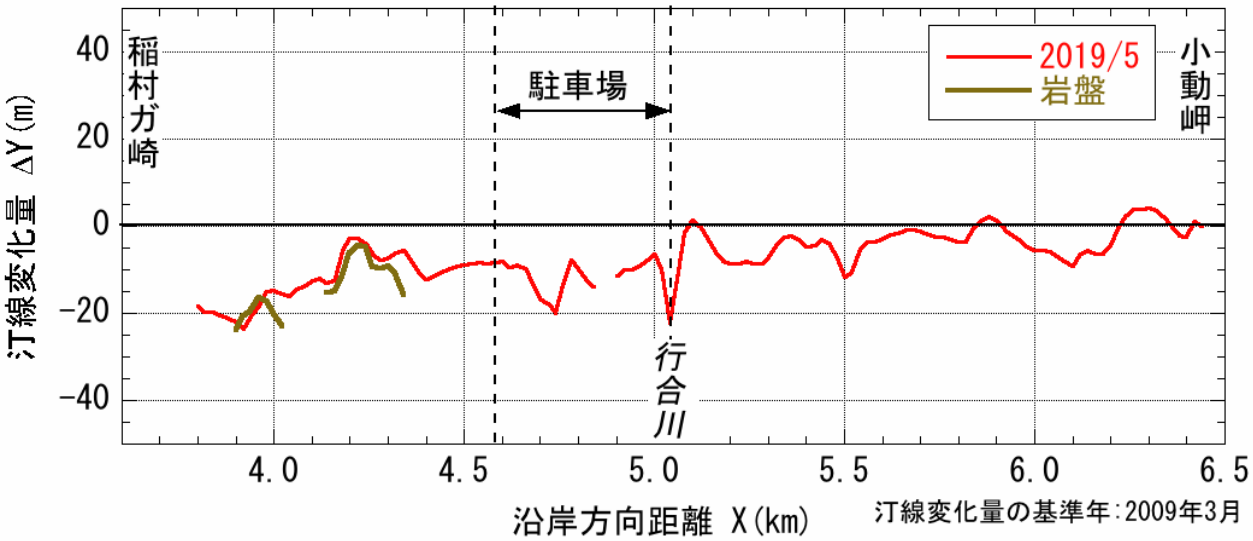
1946 年から 2009 年までの汀線変化では、全体的に海岸線が後退傾向にあり、七里ガ浜地区の両端では、小動岬近くで最大 20m、稲村ガ崎近くで最大 30m 海岸線が後退しています。

2009 年から 2019 年までも海岸線は全体的に後退傾向にあり、海岸中央部にある駐車場の西側では後退量は小さいですが、東側では稲村ガ崎に近づくほど後退量が増し、最大で約 20m もの海岸線後退が起きています。また、駐車場前面にあった砂浜も消失し、護岸が波に洗われる状態となりました。

長期の汀線変化（1946～2019 年）



近年の汀線変化（2009～2019 年）



【侵食対策の基本方針】

砂浜の安定性と波消し機能より、鎌倉海岸七里ガ浜地区の砂浜の回復・保全の方向性は以下の通りです。

鎌倉海岸	砂浜評価	基本方針
七里ガ浜地区	タイプＡ	・砂浜は侵食傾向にあり、浜幅の狭い箇所では砂浜の根固め機能が不足し、道路護岸に被害が発生していることから、養浜によって砂浜を回復します。

【侵食対策の計画浜幅】

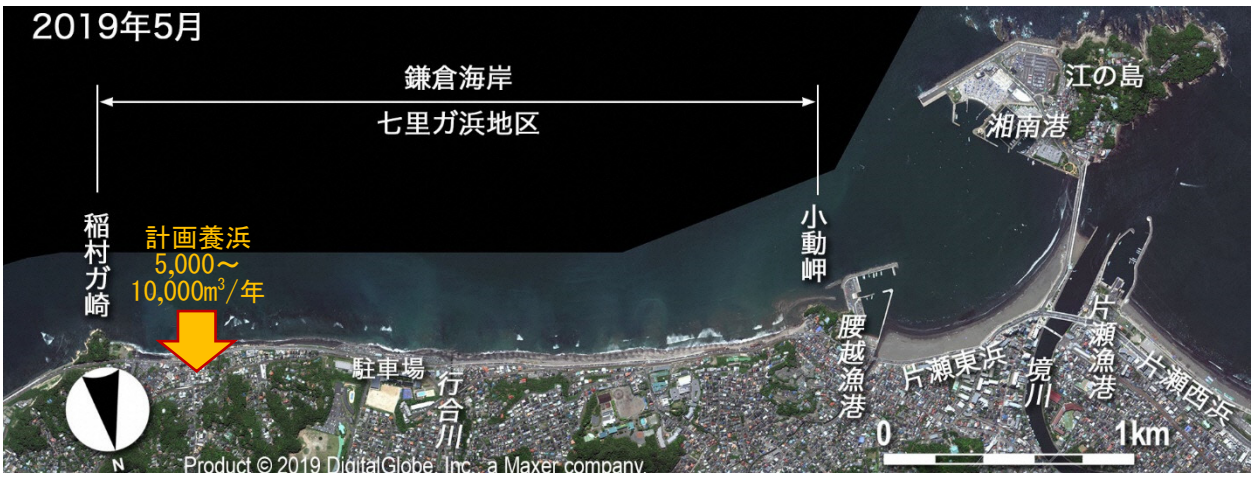
鎌倉海岸	計画浜幅
七里ガ浜地区	20～30m

【侵食対策計画】

砂浜を回復するために必要な養浜の計画量は以下の通りとします。

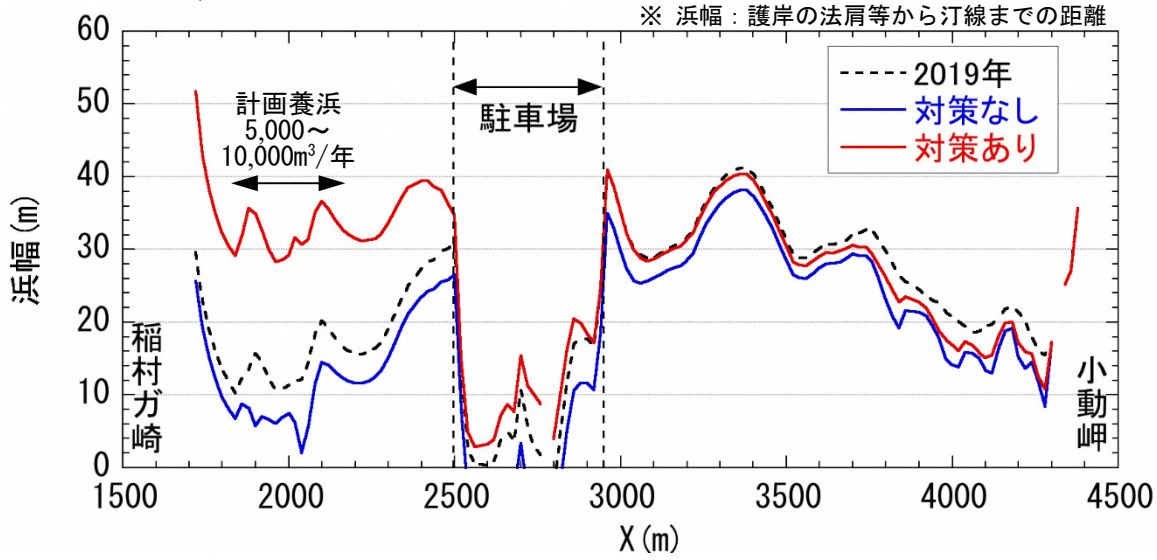
鎌倉海岸	侵食対策計画
七里ガ浜地区	稲村ガ崎西側に養浜（5,000～10,000m³/年）を行い、砂浜を回復します。

【侵食対策のイメージ】



【侵食対策（養浜 10,000m³/年）の有無による浜幅の変化予測結果（10 年後）】

※ 浜幅：護岸の法肩等から汀線までの距離

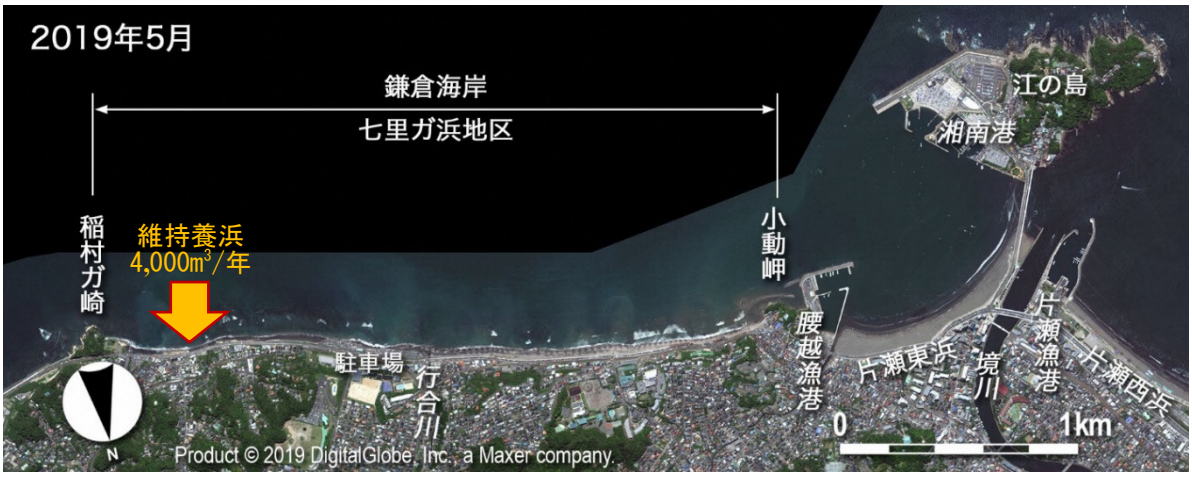


【維持管理】

計画養浜による砂浜の回復状況をモニタリングしつつ、稲村ガ崎西側における維持養浜は継続していくものとします。

鎌倉海岸	維持管理
七里ガ浜地区	稲村ガ崎西側に養浜（4,000m³/年）を行い、砂浜を維持します。 浜幅の狭い小動岬東側については、侵食状況をモニタリングし、必要に応じて養浜による砂浜の維持を図ります。

【維持管理のイメージ】



5.13　鎌倉・藤沢海岸腰越・片瀬東浜地区（ポケットビーチ）

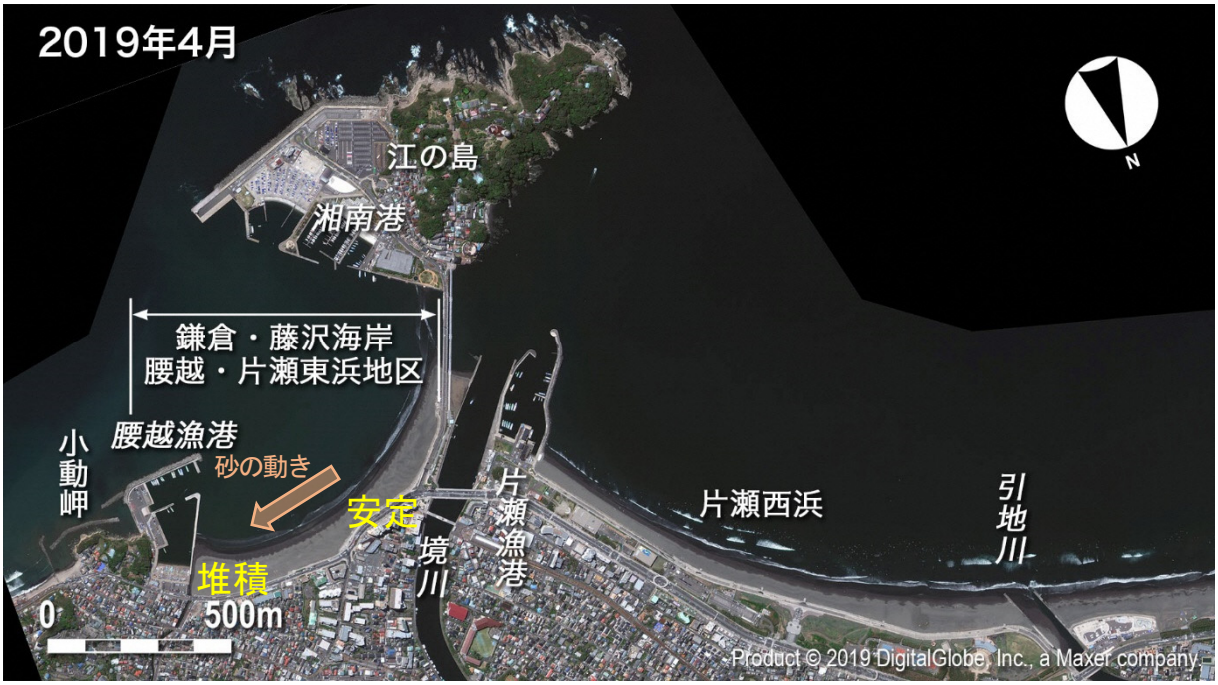
※ 対策の実施に際しては、本計画に基づき、サンドリサイクルの量、質、投入方法等に関する、より具体的な検討を加えるものとします。

鎌倉・藤沢海岸腰越・片瀬東浜地区（ポケットビーチ）

【海岸概要】

鎌倉・藤沢海岸腰越・片瀬東浜地区は、東端の小動（こゆるぎ）岬と西端の江の島に挟まれた長さ１km の砂浜海岸です。湘南港の防波堤が伸ばされ、波が遮られた結果、波の遮へい域へ向かう砂の動きにより、砂浜が舌状に伸びて江の島までつながり（トンボロの形成）、片瀬東浜の砂浜が大きく広がりました。また、2000 年に腰越漁港の防波堤が伸ばされたため、片瀬東浜は湘南港と腰越漁港に挟まれる形となりました。

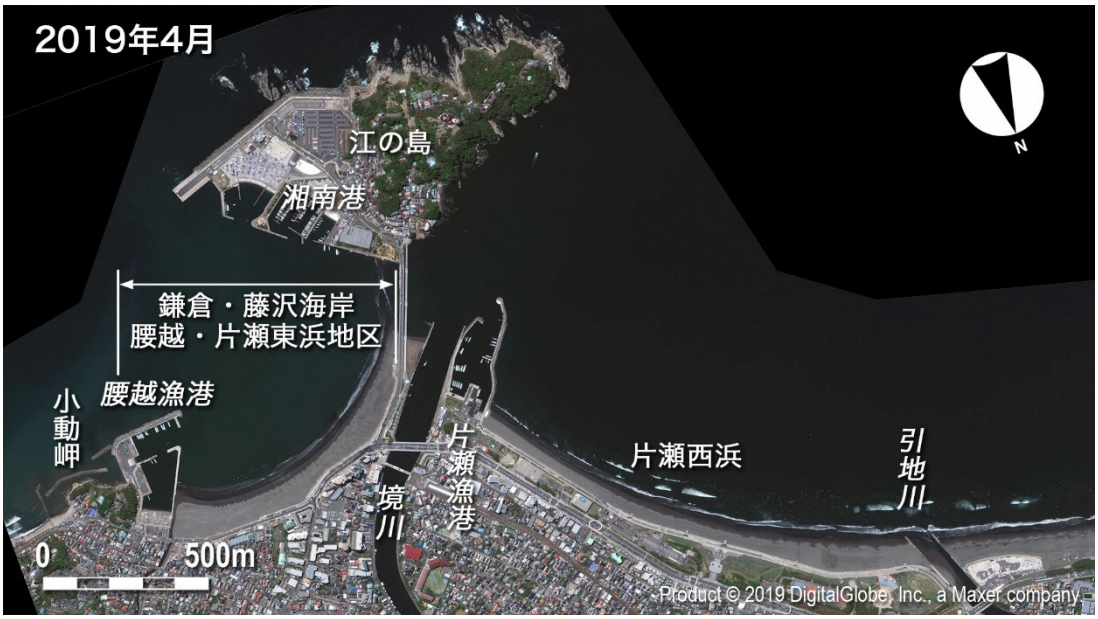
※　トンボロ：島や構造物の背後に砂が堆積して形成される、島や構造物と連結した砂州



【現状の海岸の評価】

海　岸　名		鎌倉・藤沢海岸
地　区　名		腰越・片瀬東浜地区
砂浜の安定性	傾　向	安 定 / 堆 積
	変形要因	・湘南港や腰越漁港の建設などの地形的改変により堆積が進み、その状態で安定しています。
	変形予想	・対策を行わず放置した場合には、全体的に砂浜は堆積あるいは安定すると予想され、海岸線の後退量は最大でも５m 程度と予想されます。
砂浜の波消し機能による高波からの海岸背後地等の防護		○　防護されています
課　題		現状の砂浜の維持

【空中写真による海岸の変遷】

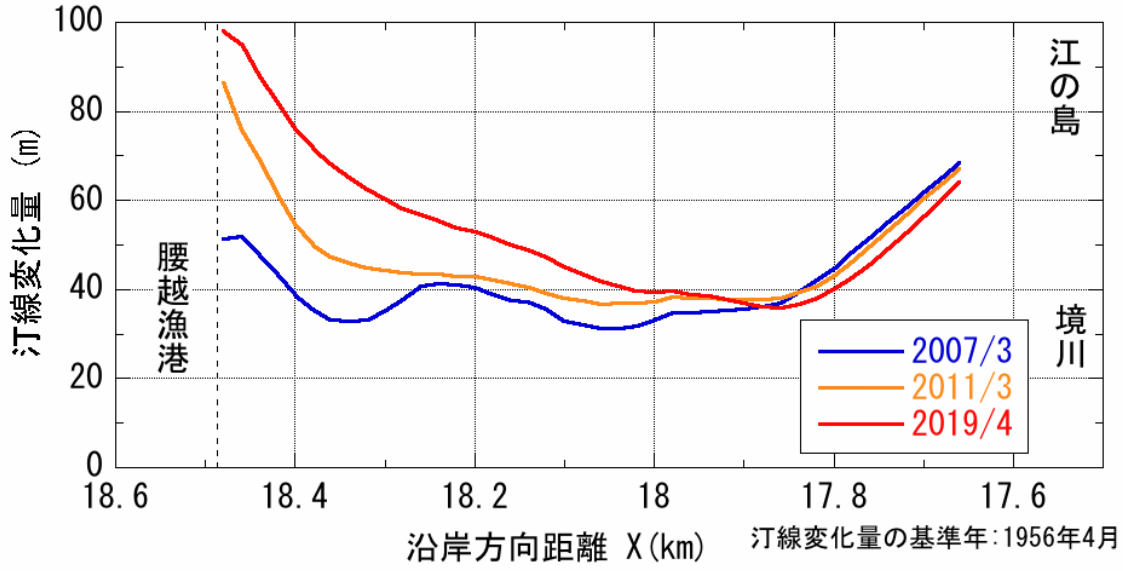


【海岸線の変化】

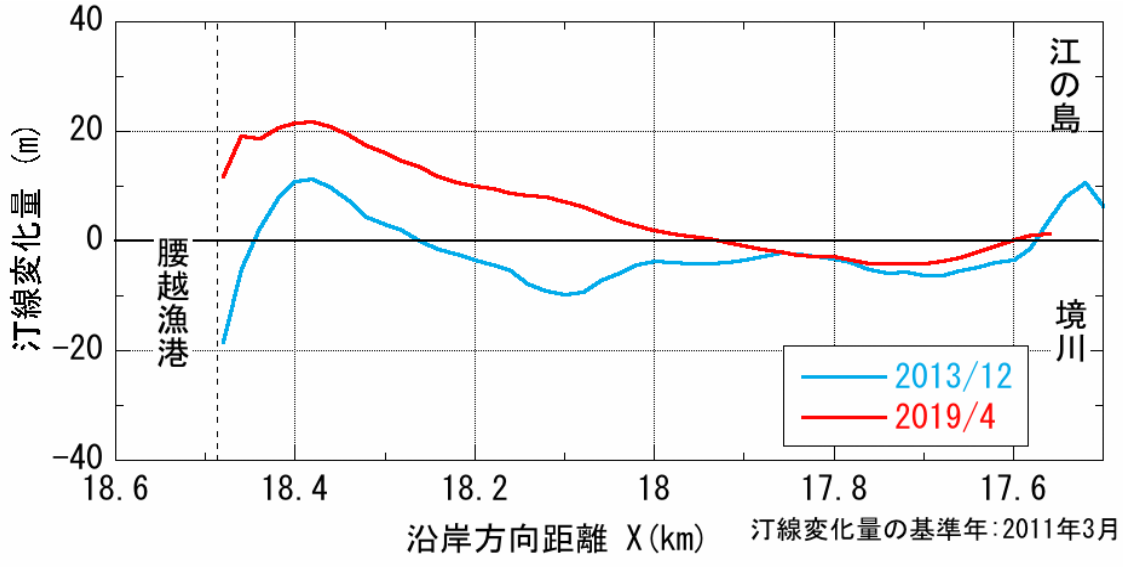
長期の 1956 年から 2007 年までは、両端部の海岸線の前進が顕著であり、中央部の海岸線も 30m 以上前進しています。2007 年から 2011 年までは、さらに海岸線が 10m 程度以上前進しており、腰越漁港近くの海岸線は 1956 年から 2011 年までに 80m 以上前進しています。

近年の 2011 年から 2019 年までは、東部で堆積傾向、西部で侵食傾向となっていますが、海岸線の後退量は５m 以下と小さくなっています。

長期の汀線変化（1956～2019 年）



近年の汀線変化（2011～2019 年）



【侵食対策の基本方針】

砂浜の安定性と波消し機能より、鎌倉・藤沢海岸腰越・片瀬東浜地区の砂浜の回復・保全の方向性は以下の通りです。

鎌倉・藤沢海岸	砂浜評価	基本方針
腰越・片瀬東浜地区	タイプD	・砂浜は浜幅が広く堆積あるいは安定傾向にあり、砂浜の波消し機能により背後地の防護水準が保たれていることから、現状の砂浜を保全（維持・管理）します。

【侵食対策の計画浜幅】

鎌倉・藤沢海岸	計画浜幅
腰越・片瀬東浜地区	現状の砂浜

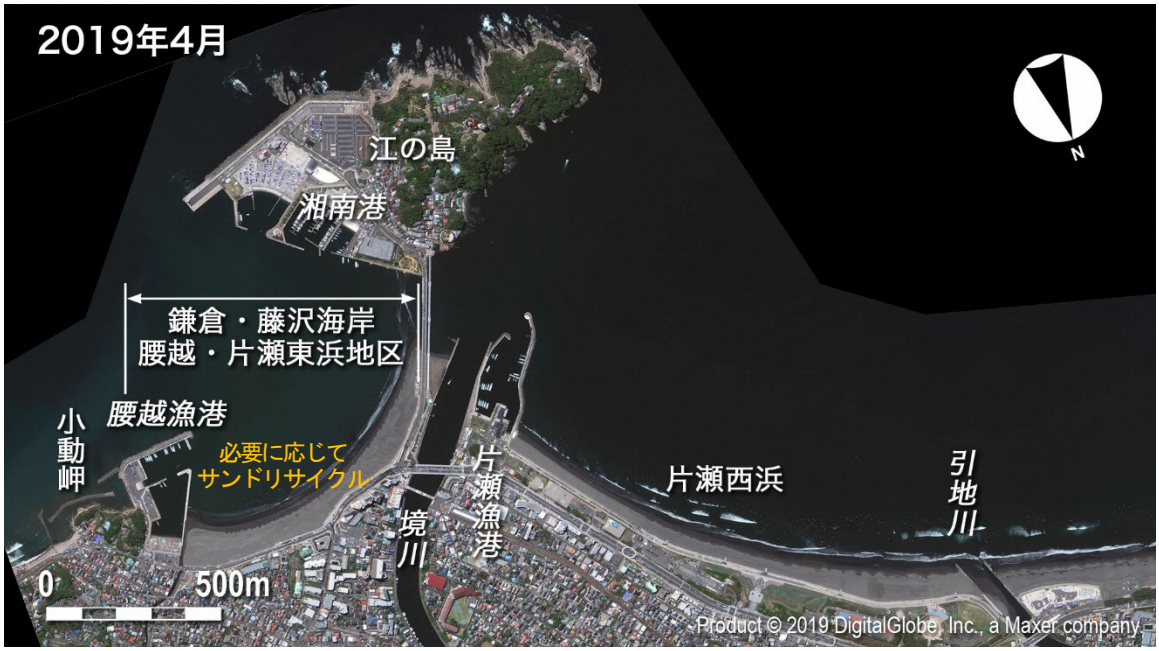
【侵食対策計画】

鎌倉・藤沢海岸	侵食対策計画
腰越・片瀬東浜地区	なし

【維持管理】

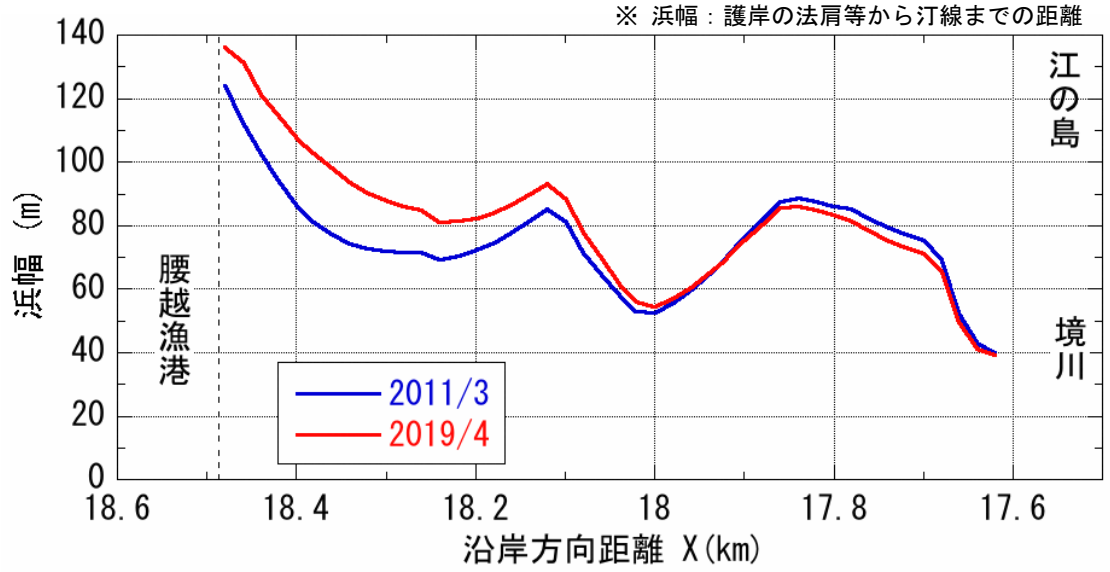
鎌倉・藤沢海岸	維持管理
腰越・片瀬東浜地区	砂浜の状況をモニタリングし、必要に応じてサンドリサイクルや飛砂防止対策などを検討し、海浜を維持します。

【維持管理のイメージ】



【浜幅の変化】

※ 浜幅：護岸の法肩等から汀線までの距離



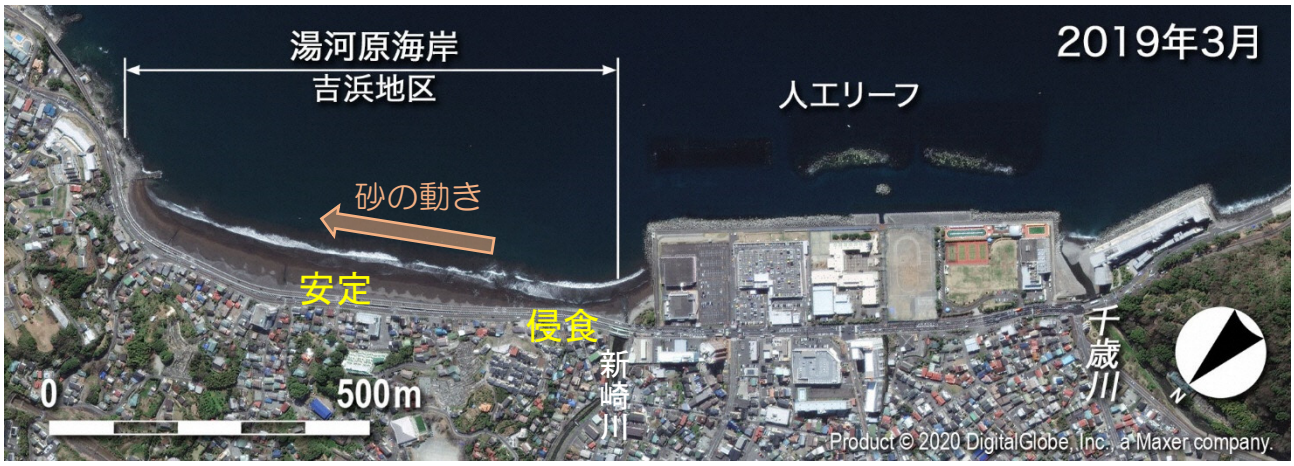
5.14　湯河原海岸吉浜地区（ポケットビーチ）

※ 対策の実施に際しては、本計画に基づき、サンドバイパス等の量、質、投入方法等に関する、より具体的な検討を加えるものとします。

湯河原海岸吉浜地区（ポケットビーチ）

【海岸概要】

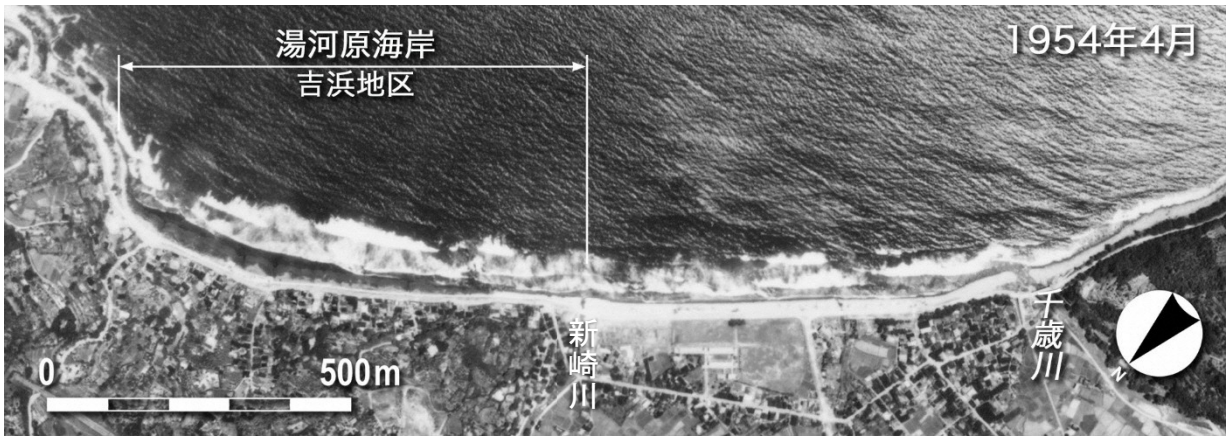
湯河原海岸吉浜地区には千歳川と新崎川が流入し、これらの河川からの土砂供給により、長さ 1.5km のポケットビーチが形成されてきましたが、千歳川河口から新崎川河口間まで埋立地が造成された結果、砂浜のほぼ 1/2 は消失しました。また、埋立地護岸の前面が深く越波が著しいため、消波施設として沖合に人工リーフ３基を整備しました。



【現状の海岸の評価】

海　岸　名		湯河原海岸
地　区　名		吉浜地区
砂浜の安定性	傾　向	侵 食
	変形要因	・過去、埋立地造成に伴い、海浜砂の一部が埋立に使われて砂浜が消失するとともに、千歳川からの土砂供給が減少した結果、全体的に海岸線が後退しました。一方、新崎川河口付近では埋立地による波の遮へい域に向かう砂の動きにより海岸線が前進しました。 ・近年でも南部では侵食傾向が続いています。
	変形予測（10年後）	・対策を行わず放置したとしても、海岸線の変化は小さいですが、砂浜の回復を図ることはできません。
砂浜の波消し機能による高波からの海岸背後地等の防護		○　防護されています
課　題		現状の砂浜の維持

【空中写真による海岸の変遷】

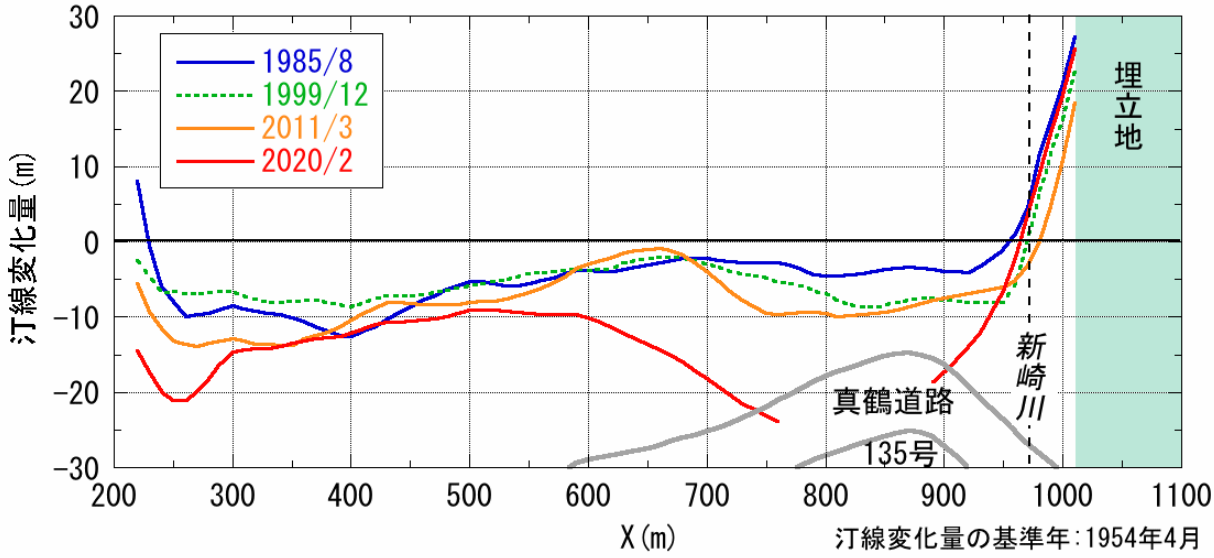


【海岸線の変化】

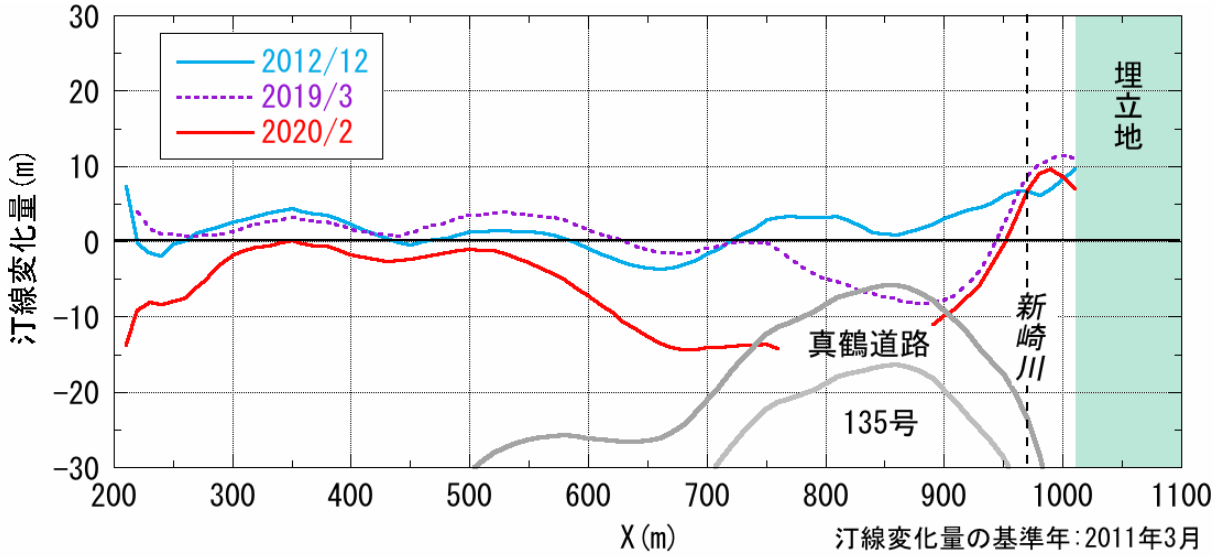
1954 年から 1985 年までは、北部で海岸線が最大 12m 後退する一方で、南端の埋立地基部では海岸線が最大 26m 前進しています。1985 年から 2011 年まででは、さらに北部で海岸線が最大５m 後退し、南部でも５m 前後後退しました。

2011 年から 2020 年までの変化では、一部を除いて全体的に侵食傾向に変わり、最大 14m の海岸線の後退が生じています。とくに真鶴道路の高架部分での海岸線の後退が目立っています

長期の汀線変化（1954～2020 年）



近年の汀線変化（2011～2020 年）



【侵食対策の基本方針】

砂浜の安定性と波消し機能より、湯河原海岸吉浜地区の砂浜の回復・保全の方向性は以下の通りです。

湯河原海岸	砂浜評価	基本方針
吉浜地区	タイプC	・南端部の侵食を除いて砂浜は安定傾向にあり、砂浜の波消し機能により背後地の防護水準が保たれていますが、高波浪の来襲時には砂浜が侵食されることから、養浜によって砂浜を保全します。

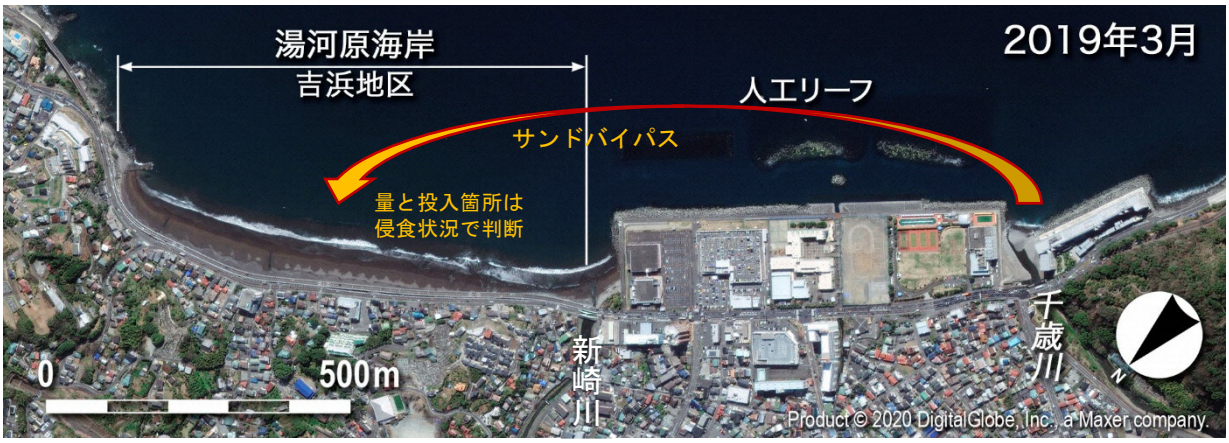
【侵食対策の計画浜幅】

湯河原海岸	計画浜幅
吉浜地区	現状の砂浜

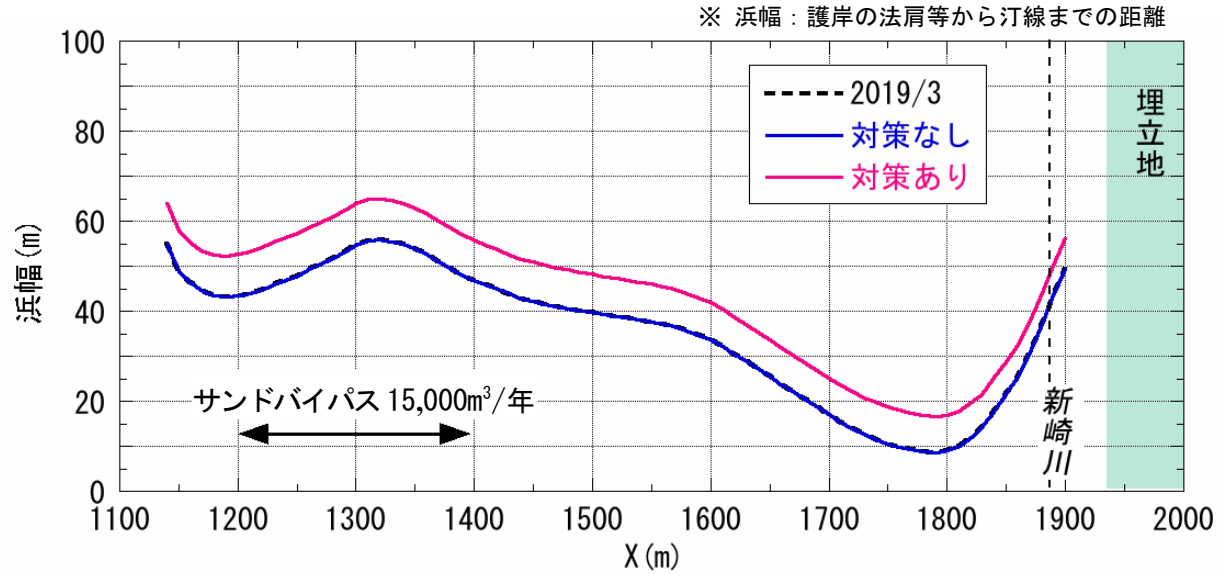
【侵食対策計画】

湯河原海岸	侵食対策計画
吉浜地区	必要に応じて、千歳川河口の堆積土砂の活用したサンドバイパス等により砂浜を維持します。 注）千歳川河口の堆積土砂は、埋立地建設前は吉浜地区に供給されていたことから、その土砂を利用することは健全な土砂管理の視点からも有効です。

【侵食対策・維持管理のイメージ】



【侵食対策の有無による浜幅の変化予測結果（10 年後）】



【維持管理】

湯河原海岸	維持管理
吉浜地区	必要に応じて、千歳川河口の堆積土砂の活用したサンドバイパス等により砂浜を維持します。 注）千歳川河口の堆積土砂は、埋立地建設前は吉浜地区に供給されていたことから、その土砂を利用することは健全な土砂管理の視点からも有効です。

5.15　三浦海岸三浦地区

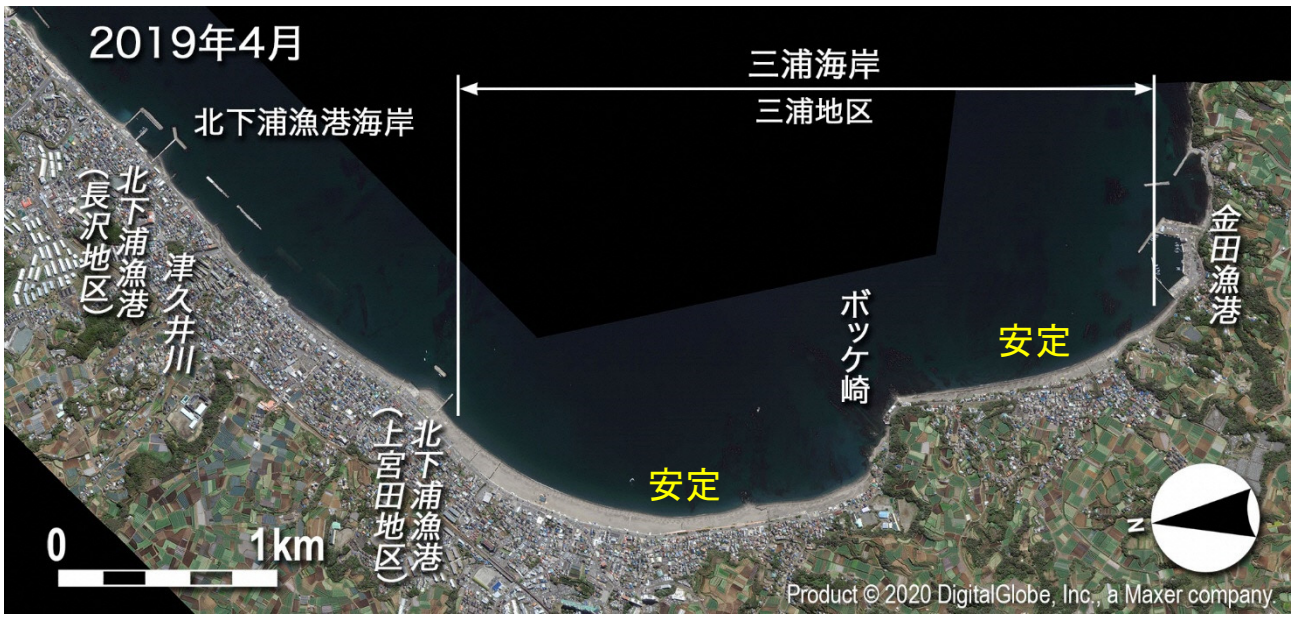
（ポケットビーチ、東京湾）

※ 対策の実施に際しては、本計画に基づき、養浜の量、質、投入方法等に関する、より具体的な検討を加えるものとします。

三浦海岸三浦地区（ポケットビーチ、東京湾）

【海岸概要】

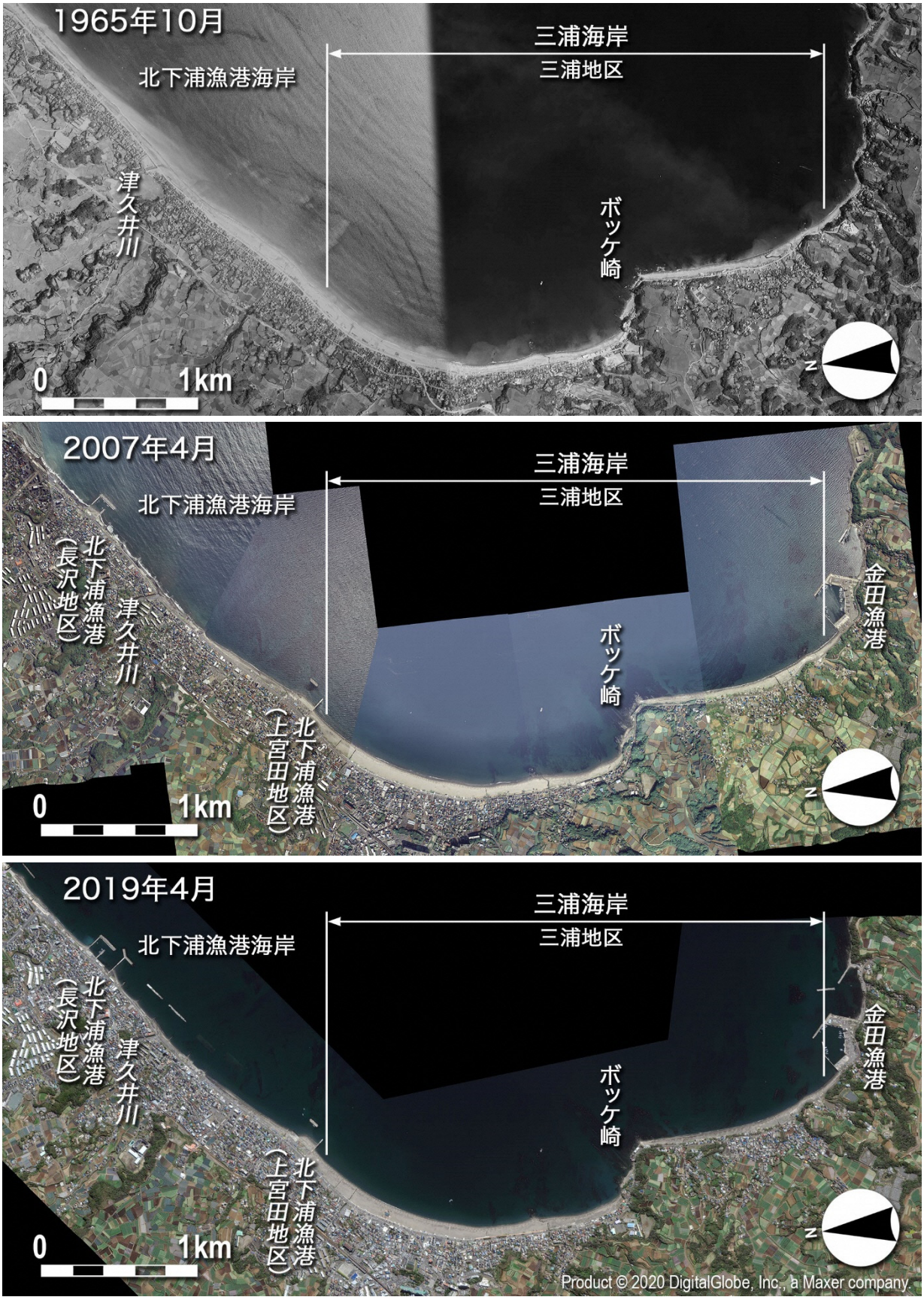
三浦海岸三浦地区は、東京湾（金田湾）に面する長さ 2.7km のポケットビーチです。北端に北下浦漁港（上宮田地区）、南端に金田漁港があり、ほぼ中央にあるボッケ崎により海岸線は区分されています。北下浦漁港（長沢地区）及び北下浦漁港（上宮田地区）では定期的に浚渫が行われており、浚渫土砂の一部は三浦海岸三浦地区に投入されてきています。



【現状の海岸の評価】

海　岸　名		三浦海岸
地　区　名		三浦地区
砂浜の安定性	傾　向	安 定
	変形要因	・浚渫土砂の投入により浜幅が広くなりましたが、海岸線の変化は小さくなっています。
	変形予想	・対策を行わず放置した場合にも、全体的に砂浜は安定しており、海岸線の後退量は最大でも 10m 程度以下と予想されます。
砂浜の波消し機能による高波からの海岸背後地等の防護		○　防護されています
課　題		現状の砂浜の維持

【空中写真による海岸の変遷】

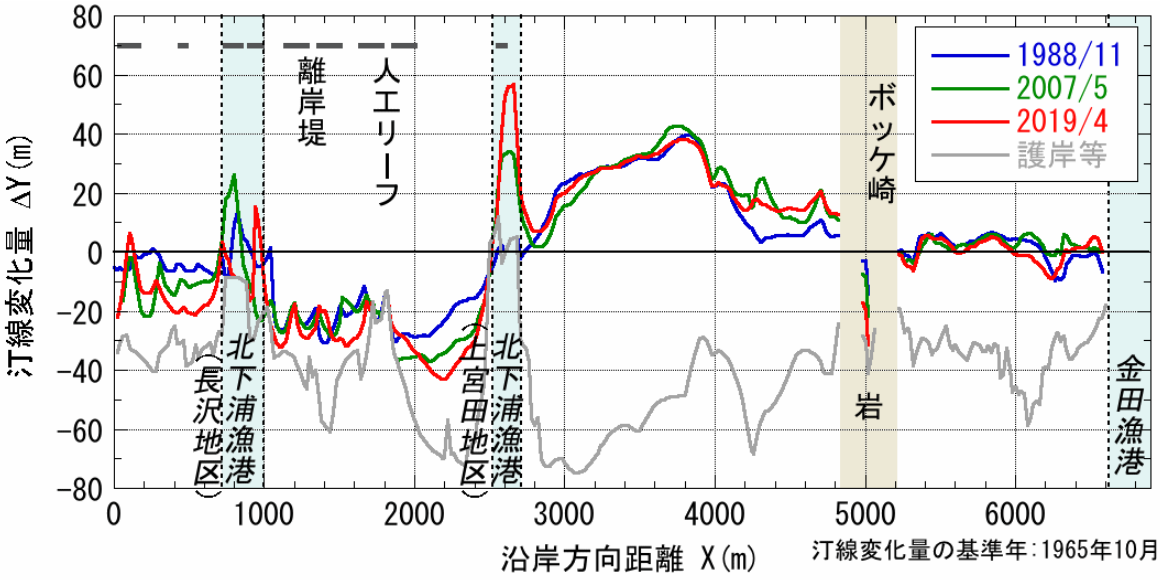


【海岸線の変化】

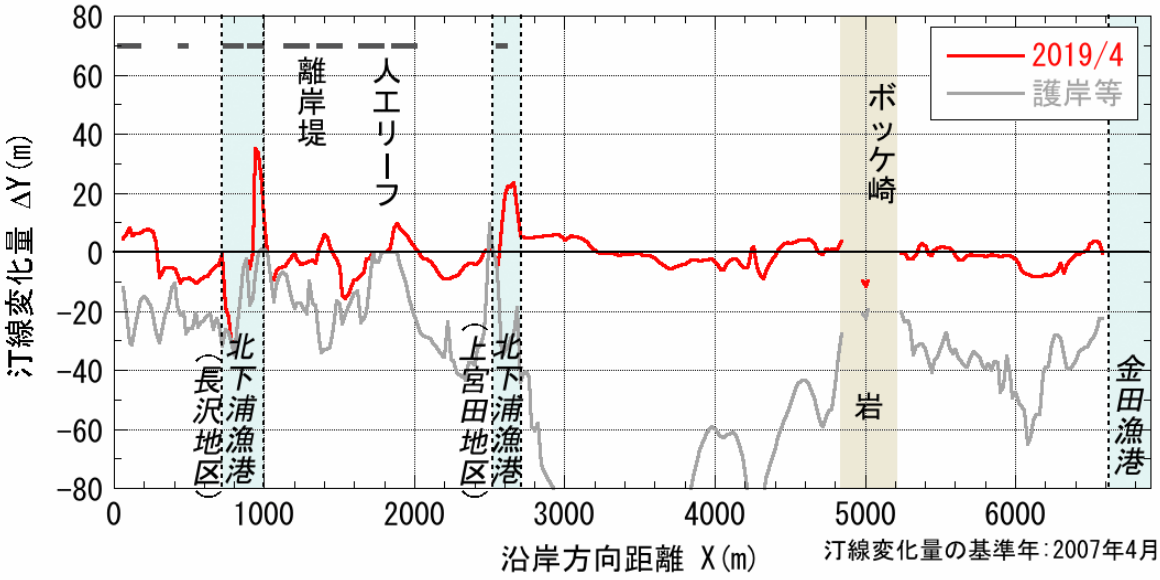
北下浦漁港（上宮田地区）～ボッケ崎間では、1965 年には海岸線には施設はなく、広い砂浜が連続的に伸びていました。1988 年には北下浦漁港（上宮田地区）の施設用地の埋め立てが始められており、1997 年には漁港の沖防波堤が造られ、2007 年には現在の漁港の形になりました。1965 年から 2007 年までには、漁港の浚渫土砂により三浦海岸三浦地区に養浜されたことにより、北下浦漁港（上宮田地区）～ボッケ崎間の海岸線は前進傾向にあり、最大前進量は 40m を超えています。ボッケ崎～金田漁港間では、1965 年から 2007 年までの海岸線の変化は小さいですが、やや前進傾向を示します。

近年の 2007 年から 2019 年までの海岸線の変化は、北下浦漁港（上宮田地区）～ボッケ崎間及びボッケ崎～金田漁港間では、ともに北部で前進傾向、中央部・南部で後退傾向となりましたが、漁港の浚渫土砂による養浜は行われていないため、海岸線の前進量は５m 未満と小さくなっています。

長期の汀線変化（1965～2019 年）



近年の汀線変化（2007～2019 年）



【侵食対策の基本方針】

砂浜の安定性と波消し機能より、三浦海岸三浦地区の砂浜の回復・保全の方向性は以下の通りです。

三浦海岸	砂浜評価	基本方針
三浦地区	タイプD	・砂浜は浜幅が広く安定傾向であり、波消し機能により背後地の防護水準が保たれていることから、現状の砂浜を保全（維持・管理）します。

【侵食対策の計画浜幅】

三浦海岸	計画浜幅
三浦地区	現状の砂浜

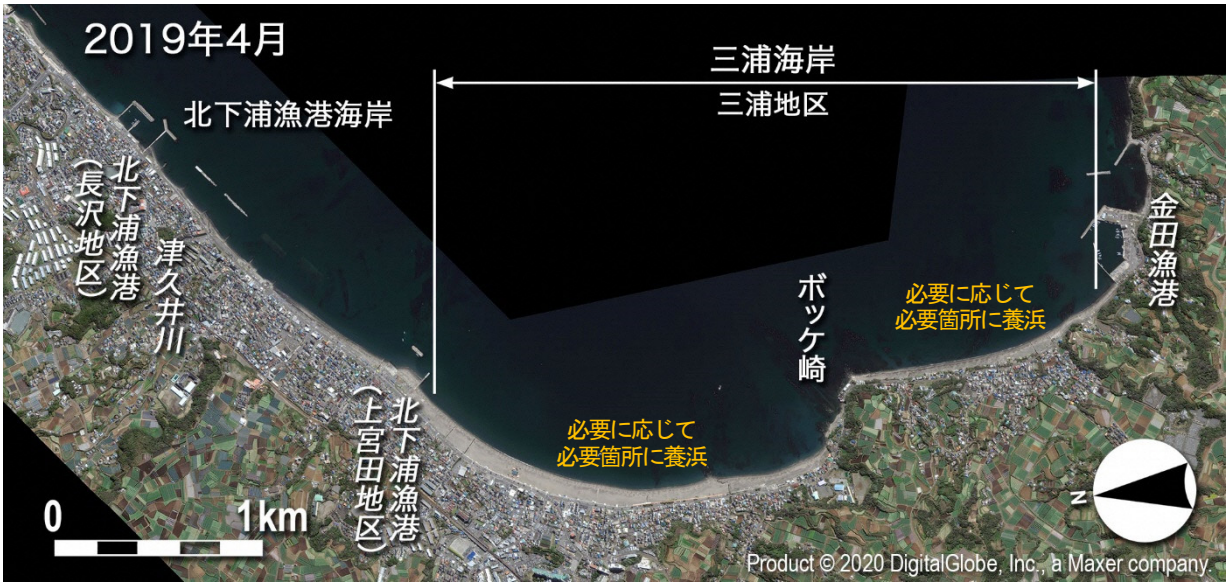
【侵食対策計画】

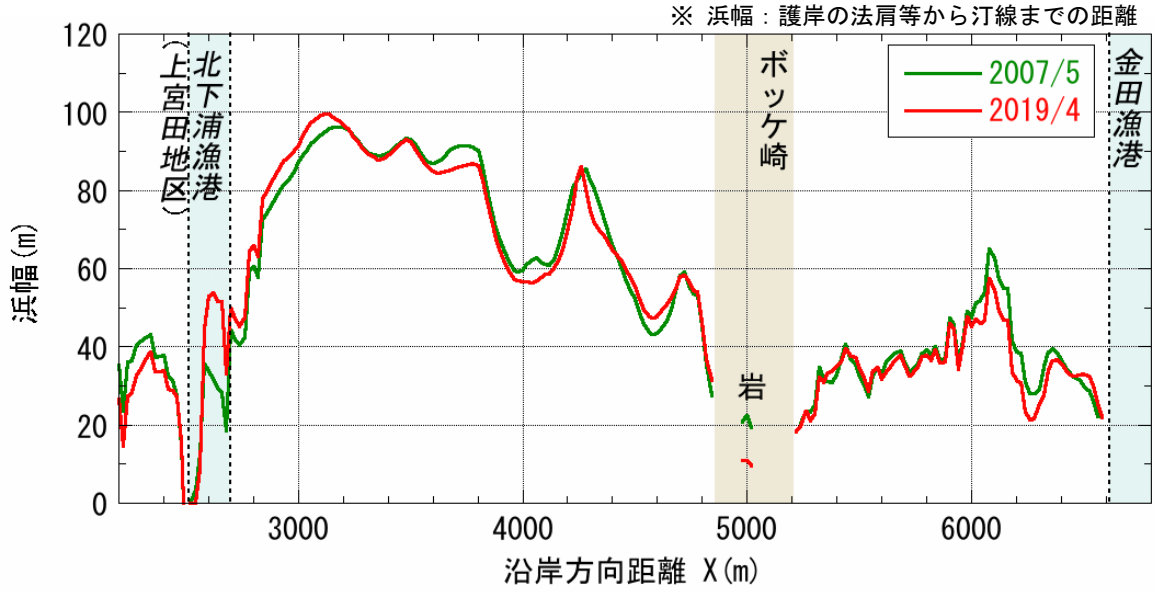
三浦海岸	侵食対策計画
三浦地区	なし

【維持管理】

三浦海岸	維持管理
三浦地区	砂浜の状況をモニタリングし、必要に応じて維持養浜を行います。

【維持管理のイメージ】



【浜幅の変化】

※ 浜幅：護岸の法肩等から汀線までの距離